

いちご に使用可能な農薬一覧表

銚田市農業振興センター  
【令和7年5月1日現在】

<殺菌剤>

薬剤名	対象病虫害									希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	うどんこ病	灰色かび病	炭疽病	疫病	芽枯病	菌核病	輪斑病	萎黄病	その他 病害虫							
ランマンフロアブル				●						500～1000倍 (50mL/株)	育苗期	2回 以内	株元灌注	シアゾファミド	4回以内(但し、育苗期は2回以内、定植後は2回以内)	21
										500～1000倍 (100mL/株)	生育期(但し、収穫30日前まで)	2回 以内	株元灌注			
ベルコート水和剤	●		●							1000倍 (100～300L/10a)	育苗期(定植前)	5回 以内	散布	イミノクタジン アルベシル酸塩	10回以内(但し、育苗期は5回以内、本圃では5回以内)	M07
	●									4000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで (生育期)	5回 以内	散布			
ダイマジン	●	●								2000倍 (150～300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	イミノクタジン アルベシル酸塩	10回以内(但し、育苗期は5回以内、本圃では5回以内)	M07
									フェンヘキサミド					3回以内	17	
ジャストミート顆粒水和剤		●								2000～3000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	フェンヘキサミド	3回以内	17
									フルジオキサニル					3回以内	12	
アミスター20フロアブル	●									1500～2000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	#	散布	アゾキシストロビン	8回以内(但し、苗床では4回以内、本圃での土壌混和は1回以内、本圃での散布は3回以内) #苗床：4回以内 本圃：3回以内	11
									1500～2000倍 (100～300L/10a)	親株育成期	3回 以内	散布				
		●								1500倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	#	散布			
										1500倍 (100～300L/10a)	親株育成期	3回 以内	散布			
			●							2000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	#	散布			
										2000倍 (100～300L/10a)	親株育成期	3回 以内	散布			

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺菌剤> いちご

【令和7年5月1日現在】

薬剤名	対象病害虫								希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	うどんこ病	灰色かび病	炭疽病	疫病	芽枯病	菌核病	輪斑病	萎黄病							
オラクル顆粒水和剤				●					2000～3000倍 (50mL/株)	育苗期	3回 以内	土壌灌注	アミスルブロム	3回以内	21
アントラコール顆粒水和剤			●						500倍 (150～300L/10a)	仮植栽培期	6回 以内	散布	プロピネブ	6回以内	M03
ペンコゼブ水和剤			●						600倍 (100～300L/10a)	仮植栽培期 但し収穫76日前まで	6回 以内	散布	マンゼブ	6回以内  (殺虫殺菌剤)	I:UN F:M03
ゲッター水和剤			●						1000倍 (100～300L/10a)	収穫開始21日前まで	3回 以内	散布	ジェットフェンカルブ	6回以内	10
								チオファネートメチル					4回以内(但し、種子への処理は1回以内、は種後は3回以内)	1	
オーソサイド水和剤80		●	●		●				800倍 (100～300L/10a)	収穫開始14日前まで	5回 以内	散布	キャプタン	5回以内	M04
ポリオキシシナール水溶剤	●	●						ハダニ類、アザミウマ類	5000倍 (100～300L/10a)	収穫開始14日前まで	3回 以内	散布	ポリオキシシン複合体	3回以内  (殺虫殺菌剤)	19
ストロビーフロアブル	●								3000～5000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	クレソキシムメチル	3回以内	11
パンチョTF顆粒水和剤	●								2000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	シフルフェナミド	2回以内	U06
													トリフルミゾール	5回以内	
トリフミン水和剤							●	じゃのめ病	3000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	5回 以内	散布	トリフルミゾール	5回以内	3
	●								3000～5000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	5回 以内	散布			
ラリー水和剤	●								4000～8000倍 (150～300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ミクロブタニル	3回以内	3
サプロール乳剤	●								2000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	5回 以内	散布	トリホリン	5回以内	3
サンクリスタル乳剤								アブラムシ類、コナジラミ類	300倍 (150～500L/10a)	収穫前日まで	-	散布	脂肪酸グリセリド	-	-  <野菜類(なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎくを除く)該当>  (殺虫殺菌剤)
	●							ハダニ類	300～600倍 (150～500L/10a)	収穫前日まで	-	散布			

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺菌剤> いちご

【令和7年5月1日現在】

薬剤名	対象病害虫								希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	うどんこ病	灰色かび病	炭疽病	疫病	芽枯病	菌核病	輪斑病	萎黄病							
ルビゲン水和剤	●								4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	フェナリモル	3回以内	3
ジーファイン水和剤	●								750~1000倍 (150~500L/10a)	収穫前日まで	-	散布	炭酸水素ナトリウム	-	NC  <野菜類(なすを除く)該当>
								白さび病、軟腐病	1000倍 (150~500L/10a)	収穫前日まで	-	散布	無水硫酸銅	-	
ハーモメイト水溶剤	●								800~1000倍 (150~300L/10a)	収穫前日まで	-	散布	炭酸水素ナトリウム	-	NC  <野菜類該当>
		●						さび病	800倍 (150~300L/10a)	収穫前日まで	-	散布			
カリグリーン	●								800~1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	-	散布	炭酸水素カリウム	-	NC  <野菜類(トマト、ミニトマトを除く)該当>
		●						さび病	800倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	-	散布			
サンヨール	●								500倍	定植前	1回	瞬間~5分間苗浸漬	DBEDC	6回以内(但し、定植前の苗浸漬は1回以内)  (殺虫殺菌剤)	M01
									800倍	定植前	1回	5分間苗浸漬			
	500~1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	6回 以内	散布											
	●						アブラムシ類、ハダニ類	500倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	6回 以内	散布				
フルピカフロアブル	●								50倍 (5L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	常温煙霧	メパニピリム	3回以内	9
									100倍 (10L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	常温煙霧			
	●	●						2000~3000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布				

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺菌剤> いちご

【令和7年5月1日現在】

薬剤名	対象病害虫								希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード (FRAC)	
	うどんこ病	灰色かび病	炭疽病	疫病	芽枯病	菌核病	輪斑病	萎黄病								その他 病害虫
サンリット水和剤			●						2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	シメコナゾール	3回以内	3	
	●								2000~4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布				
スミレックス水和剤		●							2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	プロシミドン	3回以内	2	
ロブラール水和剤		●						黒斑病	1500倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	4回 以内	散布	イプロジオン	5回以内(但し、種子粉衣は1回以内、は種後は4回以内)	2	
カンタスドライフロアブル		●							1000~1500倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ボスカリド	3回以内	7	
イオウフロアブル	●								500~1000倍 (100~300L/10a)	親株床初期	-	散布	硫黄	-	I:UN F:M02 (殺虫殺菌剤)	
									2000倍 (100~300L/10a)	発病前~発病初期	-	散布				
硫黄粉剤50	●							ハダニ類	3kg/10a	-	-	散布	硫黄	-	<野菜類該当> (殺虫殺菌剤)	I:UN F:M02
セイビアーフロアブル20		●							1000~1500倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	フルジオキシニル	3回以内	12	
			●					黒腐病	1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布				
ファンタジスタ顆粒水和剤		●							2000~3000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ピリベンカルブ	3回以内	11	
			●						2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布				
アフエットフロアブル	●	●						●	黒色根腐病	2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ペンチオピラド	3回以内	7
パンチョTFジェット	●									くん煙室容積400m <sup>3</sup> (床面積200m <sup>2</sup> ×高さ 2m) 当り50g	収穫前日まで	2回 以内	くん煙	シフルフェナミド	2回以内	U06
														トリフルミゾール	5回以内	

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺菌剤> いちご

【令和7年5月1日現在】

薬剤名	対象病害虫								希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	うどんこ病	灰色かび病	炭疽病	疫病	芽枯病	菌核病	輪斑病	萎黄病							
モレスタン水和剤	●								3000~4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	キノキサリン系	2回以内  (殺虫殺菌剤)	F:M10 I:UN
スクレアフロアブル	●					●			2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	マンデストロビン	3回以内	11
トップジンM水和剤							●		300~500倍 (-)	仮植前	3回 以内	1時間苗根部浸漬	チオファネート メチル	4回以内(但し、種子への処理は1回以 内、は種後は3回以内)	1
								300~500倍 (3L/m <sup>2</sup> )	仮植時及び仮植栽培期	3回 以内	灌注				
	●							1500倍 (100~300L/10a)	収穫開始21日前まで	3回 以内	散布				
								1000倍 (-)	株冷蔵栽培の株冷蔵前	3回 以内	5分間株浸漬				
ジマンダイセン水和剤			●					じゃのめ病	600倍 (100~300L/10a)	仮植栽培期 (但し収穫76日前ま で)	6回 以内	散布	マンゼブ	6回以内  (殺虫殺菌剤)	F:M03 I:UN
キノンドーフロアブル			●						100倍 (5mL/株)	育苗期	3回 以内	クワン部散布	有機銅	3回以内	M01
								500~800倍 (100~300L/10a)	育苗期	3回 以内	散布				
デランフロアブル			●						1000倍 (100~300L/10a)	育苗期	2回 以内	散布	ジチアノン	2回以内	M09
ベルコートフロアブル	●		●			●			1000倍 (100~300L/10a)	育苗期(定植前)	5回 以内	散布	イミノクタジン アルベシル酸塩	10回以内(但し、育苗期は5回以内、本 圃では5回以内)	M07
		●	●				黒斑病	2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで (生育期)	5回 以内	散布				
	●							2000~4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで (生育期)	5回 以内	散布				
リドミルゴールドMZ				●					1000倍 50mL/株 (200~400L/10a)	育苗期	3回 以内	散布	マンゼブ	6回以内	F:M03 I:UN
												散布	メタラキシルM	5回以内(但し、種子への処理は1回以 内、育苗期は3回以内、定植時の土壌混 和は1回以内)	4

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺菌剤> いちご

【令和7年5月1日現在】

薬剤名	対象病虫害								希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	うどんこ病	灰色かび病	炭疽病	疫病	芽枯病	菌核病	輪斑病	萎黄病							
ユニフォーム粒剤				●					10kg/10a	定植時	1回	作条土壌混和	アゾキシストロ ビン	8回以内(但し、苗床では4回以内、本圃 での土壌混和は1回以内、本圃での散布 は3回以内)	11
													メタラキシルM	5回以内(但し、種子への処理は1回以 内、育苗期は3回以内、定植時の土壌混 和は1回以内)	4
レーバフロアブル				●					2000倍 (100~300L/10a)	親株育成期	2回 以内	散布	マンジプロパミ ド	4回以内(但し、苗床では2回以内、本圃 では2回以内)	40
								育苗期		苗床: 2回 以内	散布				
								生育期 (但し、収穫前日ま で)		本圃: 2回 以内	散布				
コサイド3000			●					角斑細菌病	1000倍 (100~300L/10a)	-	-	散布	水酸化第二銅	-	M01
パレード20フロアブル	●	●							2000~4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ピラジフルミド	3回以内	7
カナメフロアブル	●	●							4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	4回 以内	散布	インピルフルキ サム	4回以内	7
ショウチノスケフロアブル	●	●							2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	フルチアニル	2回以内	U13
													メパニピリム	3回以内	9

※参考資料の作成に当たっては、農業使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農業を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農業の誤った使用を行わないようにしてください。

※農業散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農業が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

いちご に使用可能な農薬一覧表

銚田市農業振興センター

【令和7年5月1日現在】

<殺虫剤>

薬剤名	対象病虫害								希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード		
	ハ ダ ニ 類	ア ブ ラ ム シ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	ザ ミ カ ン キ イ ロ ア	ウ ハ ス モ ン ヨ ト	コ ナ ジ ラ ミ 類	オ オ タ バ コ ガ	リ シ ク ラ メ ン ホ コ								その他 病虫害	
ディ・トラペックス油 剤									センチュウ類	20~30L/10a	は種又は植付の21日 前まで	1回	圃場を耕起・整地した 後、所定量を深さ約12 ~15cmに注入し、直ち に覆土・鎮圧する。薬 剤処理7~14日後にガ ス抜き作業を行う。	メチルイソチオ シアネート	1回	(殺虫殺菌除草剤)	8F
									疫病、萎凋病	30L/10a	は種又は植付の21日 前まで	1回					
									萎黄病、炭疽病、 一年生雑草	30~40L/10a	は種又は植付の21日 前まで	1回		D-D	1回	8A	
ダイアジノン粒剤5									コガネムシ類幼虫	4~6kg/10a	植付時(仮植床)	1回	土壌混和	ダイアジノン	2回以内	1B	
								4~6kg/10a		定植時(本圃)	1回	土壌混和					
テデオンの乳剤	●									500~1000倍 (100~300L/10a)	収穫3日前まで	2回 以内	散布	テトラジホン	2回以内	12D	
マイトコーネフロアブル	●									1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	ビフェナゼート	2回以内	20D	
ダニトロンフロアブル	●									1000~2000倍 (150~300L/10a)	収穫前日まで	1回	散布	フェンピロキシ メート	1回	21A	
										1000倍 (150~300L/10a)	収穫前日まで	1回	散布				
ダニサラバフロアブル	●									1000倍 (100~350L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	シフルメトフェン	2回以内	25A	
バロックフロアブル	●									2000倍 (100~350L/10a)	収穫前日まで	1回	散布	エトキサゾール	1回	10B	
ニッソラン水和剤	●									2000~3000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	ヘキシチアゾクス	2回以内	10A	

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺虫剤> いちご

【令和7年5月1日現在】

薬剤名	対象病害虫									希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード	
	ハダニ類	アブラムシ類	アザミウマ類	ザミウマ類	ウミカンキイロア	ハスモンヨト	コナジラミ類	オオタバコガ	リシクラメンホコ								その他 病害虫
サフオイル乳剤	●	●								300～500倍 (100～500L/10a)	収穫前日まで	-	散布	調合油	-	(殺虫殺菌剤)	NC
	●									300倍 (-)	定植前		2～10秒間苗浸漬				
							●		チャノホコリダニ、うどんこ病	300倍 (100～500L/10a)	収穫前日まで		散布				
テルスタージェット	●									くん煙処理室の容積 400㎡(床面積200㎡× 高さ2m)当り48g	収穫前日まで	2回 以内	くん煙	ビフェントリン	2回以内	(適用場所) 温室、ビニールハウス等密閉でき る場所	3A
アーデント水和剤	●	●		●						1000倍 (150～300L/10a)	収穫前日まで	4回 以内	散布	アクリナトリン	4回以内		3A
ピラニカEW	●									2000～3000倍 (150～300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	テブフェンピラド	2回以内	(殺虫殺菌剤)	21A
		●							うどんこ病	2000倍 (150～300L/10a)							
アフーム乳剤	●				●		●		ヨトウムシ	2000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	エマメクチン安 息香酸塩	2回以内		6
サンマイトフロアブル	●					●		●	ワタアブラムシ、 チャノホコリダニ	1000～1500倍 (100～300L/10a)	収穫開始3日前まで	1回	散布	ピリダベン	1回	(殺虫殺菌剤)	21A
コロマイト水和剤	●							●		2000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	ミルベメクチン	2回以内		6
スターマイトフロアブル	●							●		2000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	シエノピラフェン	2回以内		25A

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺虫剤> いちご

【令和7年5月1日現在】

薬剤名	対象病害虫									希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード		
	ハダニ類	アブラムシ類	アザミウマ類	ザミウマ	ミカンキイロア	ウハスモンヨト	コナジラミ類	オオタバコガ	リシクラメンホコ								その他 病害虫	
モスピラン粒剤		●									0.5g/株	定植時	1回	株元散布	アセタミプリド	3回以内(但し、粒剤の株元散布及び 土壌混和は合計1回以内、散布及びく ん煙は合計2回以内)	4A	
		●									0.5~1g/株	生育期(定植30日後 まで)(但し、マルチ 被覆直前まで)	1回	株元散布				
		●										0.5~1g/株	定植時	1回				植穴土壌混和
							●			コガネムシ類幼虫	1g/株	定植時	1回	植穴土壌混和				
モスピラン水溶剤		●									2000~4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	アセタミプリド	3回以内(但し、粒剤の株元散布及び 土壌混和は合計1回以内、散布及びく ん煙は合計2回以内)	4A	
			●				●				2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布				
									カキノヒメヨコバ イ		4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布				
ウララDF										●	2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	フロニカミド	2回以内  2回以内 <適用場所:温室、ガラス室、ビニー ルハウス等の密閉できる場所>	29	
		●									2000~4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布				
		●								●	100g/10a (10L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	常温煙霧				
バリアード顆粒水和剤										●	2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	チアクロプリド	3回以内	4A	
		●									2000~4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布				
チェス顆粒水和剤		●								●	5000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ピメトロジン	3回以内	9B	
コルト顆粒水和剤		●								●	3000~4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ピリフルキナゾン	3回以内	9B	

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺虫剤> いちご

【令和7年5月1日現在】

薬剤名	対象病害虫									希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード	
	ハダニ類	アブラムシ類	アザミウマ類	ザミウマ	ミカンキイロア	ウハスモンヨト	コナジラミ類	オオタバコガ	リシクラメンホコ								その他 病害虫
マブリック水和剤20		●									8000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	フルバリネート	2回以内	3A
アディオン乳剤		●									3000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	5回 以内	散布	ペルメトリン	5回以内	3A
ベストガード水溶剤		●				●				チビクロバネキノ コバエ	2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ニテンピラム	4回以内(但し、定植時の土壌混和は1 回以内、株元散布及び散布は合計3回 以内)	4A
スピノエース顆粒水和 剤			●								5000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	スピノサド	2回以内	5
マッチ乳剤			●								1000~2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	4回 以内	散布	ルフェヌロン	4回以内  (昆虫成長制御剤)	15
					●						3000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	4回 以内	散布			
カスケード乳剤			●		●					クロバネキノコバ エ類	4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	フルフェノクスロン	3回以内  (昆虫成長制御剤)	15
カウンター乳剤			●		●						2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	4回 以内	散布	ノバルロン	4回以内  (昆虫成長制御剤)	15
アタブロン乳剤			●		●						2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	クロルフルアズロン	3回以内  (昆虫成長制御剤)	15
ロムダンフロアブル					●						2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	テブフェノジド	2回以内  (昆虫成長制御剤)	18
マトリックフロアブル					●						2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	クロマフェノジド	3回以内  (昆虫成長制御剤)	18
カルモック					●						3kg/10a	収穫前日まで	1回	土壌表面株元処理	イソキサチオン	1回	1B
ファルコンフロアブル					●		●				4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	メトキシフェノ ジド	3回以内  (昆虫成長制御剤)	18

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺虫剤> いちご

【令和7年5月1日現在】

薬剤名	対象病害虫								希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード	
	ハダニ類	アブラムシ類	アザミウマ類	ザミウマ類	ウミカンキイロア	ハスモンヨト	コナジラミ類	オオタバコガ								リシクラメンホコ
フェニックス顆粒水和剤					●		●		2000~4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	フルベンジアミド	2回以内	28	
アニキ乳剤					●				2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	レピメクチン	3回以内	6	
							●		1000~2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布				
プレオフロアブル			●		●		●		1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	4回 以内	散布	ピリダリル	4回以内	UN	
スラゴ								ナメクジ類、カタツムリ類	1~5g/m <sup>2</sup>	発生時	-	ナメクジ類、カタツムリ類、アフリカマイマイ及びヒメリンゴマイマイの発生あるいは加害を受けた場所又は株元に配置	燐酸第二鉄	-  <ナメクジ類、カタツムリ類、アフリカマイマイ、ヒメリンゴマイマイが加害する農作物等> (適用場所) 温室、ハウス、圃場、花壇	-	
								アフリカマイマイ	3~5g/m <sup>2</sup>	発生時	-					
									ヒメリンゴマイマイ	5g/m <sup>2</sup>	発生時					-
モベントフロアブル		●	●			●			2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	スピロテトラマト	3回以内(但し、灌注は1回以内)  (殺虫殺菌剤)	23	
	●		●						500倍 (50mL/株)	育苗期後半~定植当日	1回	灌注				
		●				●			うどんこ病	500倍 (25~50mL/株)	育苗期後半~定植当日	1回				灌注
	●	●	●			●			チャノホコリダニ、クロバネキノコバエ類	250倍 (25mL/株)	育苗期後半~定植当日	1回				灌注
									チャノホコリダニ	500倍 (50mL/株)	定植3日前~定植当日	1回				灌注

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺虫剤> いちご

【令和7年5月1日現在】

薬剤名	対象病害虫								希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	ハダニ類	アブラムシ類	アザミウマ類	ザミウマ類	ウミカキイロア	ハスモンヨト	コナジラミ類	オオタバコガ							
モスピラン顆粒水溶剤			●			●			2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	アセタミプリド	3回以内(但し、粒剤の株元散布及び 土壌混和は合計1回以内、散布及びく ん煙は合計2回以内)	4A
		●						カキノヒメヨコバ イ、チバクロバネ キノコバエ	2000~4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内				
ハチハチフロアブル		●	●					カキノヒメヨコバ イ、チャノホコリ ダニ、クロバネキ ノコバエ類、うどん こ病	1000倍 (100~300L/10a)	1番花の開花まで	1回	散布	トルフェンピラド	1回  (殺虫殺菌剤)	I:21A F:39
アグリメック	●								500~1000倍 (100~300L/10a)	親株育成期、育苗期	2回 以内	散布	アバメクチン	2回以内	6
コロマイト乳剤	●								1000~1500倍 (100~300L/10a)	仮植前まで	2回 以内	散布	ミルベメクチン	2回以内 (親株床)	6
カネマイトフロアブル	●								1000~1500倍 (150~300L/10a)	収穫前日まで	1回	散布	アセキノシル	1回	20B
コテツフロアブル	●			●	●			●	2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	クロルフェナピル	2回以内	13
粘着くん液剤	●	●				●		うどんこ病	100倍 (150~300L/10a)	収穫前日まで	-	散布	ヒドロキシプロ ピルデンポン	-  <野菜類該当> (殺虫殺菌剤)	-
ディアナSC			●		●				2500~5000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	スピネトラム	2回以内	5
						●		クロバネキノコバ エ類	2500倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内				
ファインセーブフロア ブル			●						1000~2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	フロメトキン	3回以内	34
トルネードエースDF					●		●		2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	インドキサカル ブ	2回以内	22A

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺虫剤> いちご

【令和7年5月1日現在】

薬剤名	対象病害虫									希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	ハダニ類	アブラムシ類	アザミウマ類	ザミウマ類	ウミカキイロア	ハスモンヨト	コナジラミ類	オオタバコガ	リシクラメンホコ							
プレバソンフロアブル5					●					2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	クロラントラニ リプロール	2回以内	28
ダイアジノンSLゾル										25倍 (100L/10a)	定植前(本圃)	1回	全面土壌混和	ダイアジノン	2回以内	1B
										50倍 (100L/10a)	植付時(仮植床)	1回	全面土壌混和			
										500倍 (1000mL/m <sup>2</sup> )	ポット育苗時	1回	育苗ポット灌注			
トクチオン細粒剤F										6kg/10a	植付時	1回	全面土壌混和	プロチオホス	3回以内(但し、仮植床植付時の土壌混和は1回以内) <仮植床>	1B
フォース粒剤										6kg/10a	植付時(仮植床)	1回	全面土壌混和	テフルトリン	2回以内(但し、仮植床は1回以内、本圃は1回以内)	3A
										6kg/10a	定植時	1回	作条土壌混和			
カルホス乳剤										1000~1500倍 (3L/m <sup>2</sup> )	植付後	1回	灌注	イソキサチオン	1回 <仮植床>	1B
グレーシア乳剤	●		●		●		●			2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	フルキサメタミ ド	2回以内	30
ベネビアOD		●	●			●			チバクロバネキノ コバエ、カキノヒ メヨコバイ	2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	シアントラニリ プロール	4回以内(但し、定植時までの処理及 び定植直後の株元灌注は合計1回以 内、定植後の散布は3回以内)	28
					●				2000~4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布				
トランスフォームフロ アブル		●								2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	スルホキサフロ ル	3回以内	4C
						●			1000~2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布				
ムシラップ	●	●				●			うどんこ病	500倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	-	散布	ソルビタン脂肪 酸エステル	- <野菜類該当> (殺虫殺菌剤)	-

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺虫剤> いちご

【令和7年5月1日現在】

薬剤名	対象病害虫								希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード		
	ハダニ類	アブラムシ類	アザミウマ類	ザミウマ	ミカンキイロア	ハスモンヨトウ	コナジラミ類	オオタバコガ								リシクシラメンホコ	その他 病害虫
ネマトリンエース粒剤	●									25kg/10a	定植前	1回	全面土壌混和	ホスチアゼート	1回	1B	
									ネグサレセンチュウ	20~25kg/10a	定植前	1回	全面土壌混和				
ダニオーテフロアブル	●									2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	アシノナピル	2回以内	33	
ダニメツフロアブル	●									1000倍 (150~350L/10a)	収穫前日まで	1回	散布	エトキサゾール	1回	I:10B	
														オレイン酸ナトリウム	-		H:0
ダブルフェースフロアブル	●									2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	1回	散布	ピフルブミド	1回	25B	
														フェンピロキシメート	1回		21A
フーモン	●	●						●	うどんこ病	1000倍 (150~500L/10a)	収穫前日まで	-	散布	ポリグリセリン脂肪酸エステル	-	<野菜類該当> 殺虫殺菌剤	-

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。